

診療科  
血液内科

疾患名  
再発・難治性多発性骨髄腫

レジメ名  
DBd療法(9コース以降)

投与間隔  
1コース 4週間 計 コース

| 商品名     | 一般名       | 略号  | 投与量           | 投与方法    | 投与時間 | 投与日  |      |      |      |      |      |       |       |  |  |
|---------|-----------|-----|---------------|---------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|--|--|
|         |           |     |               |         |      | day1 | day2 | day4 | day5 | day8 | day9 | day11 | day12 |  |  |
| ダラザレックス | ダラツムマブ    |     | 16mg/kg/day   | div     | 備考参照 | ●    |      |      |      |      |      |       |       |  |  |
| (デカドロン) | (デキサメタゾン) | DEX | 20mg/body/day | div(注1) | 15分  | (●)  | (▲)  |      |      |      |      |       |       |  |  |

備考

- ・注1: 医師が必要と判断した場合のみ、day1(●)はデカドロン20mgのdiv、day2(▲)はレナデックスの経口投与を行う。75歳超またはBMI<18.5kg/m<sup>2</sup>例、control不良の糖尿病、steroidに対する忍容性がない、または有害事象を発現した方ではsteroid投与は省略可。
- ・infusion reactionを軽減させるために、本剤投与の1~3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイドホルモンを前投薬する。具体的には、1時間前までにカロナール1,000mgを内服し、デカドロン20mg+ポラミン5mgのdivを終了する(15分間で投薬後、1時間生食100mLのみとし、その後ダラザレックス)。
- ・気管支喘息や呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポラミンなど抗ヒスタミン剤の内服、短期間作用型β<sub>2</sub>アドレナリン受容体作用薬の吸入および原疾患の治療(気管支喘息では吸入ステロイド±長時間作用型β<sub>2</sub>アドレナリン受容体作用薬、COPDではスピリーバやアドエアなどの長時間作用型気管支拡張薬±吸入ステロイドの事後投与)が考慮される。

ボルテゾミブ使用法(静注か皮下注)により枝分かれレジメンある  
380-4: 静注用、380-8: 皮下注用

登録年月日  
2018年2月7日

登録No.  
No. 380-4, 8